

Ⅱ. 多文化共生について（問 5～問 7）

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことを言います。

豊橋市では、『豊橋市多文化共生推進計画 2014－2018』を策定し、多文化共生の実現に向けて、様々な事業を推進しています。

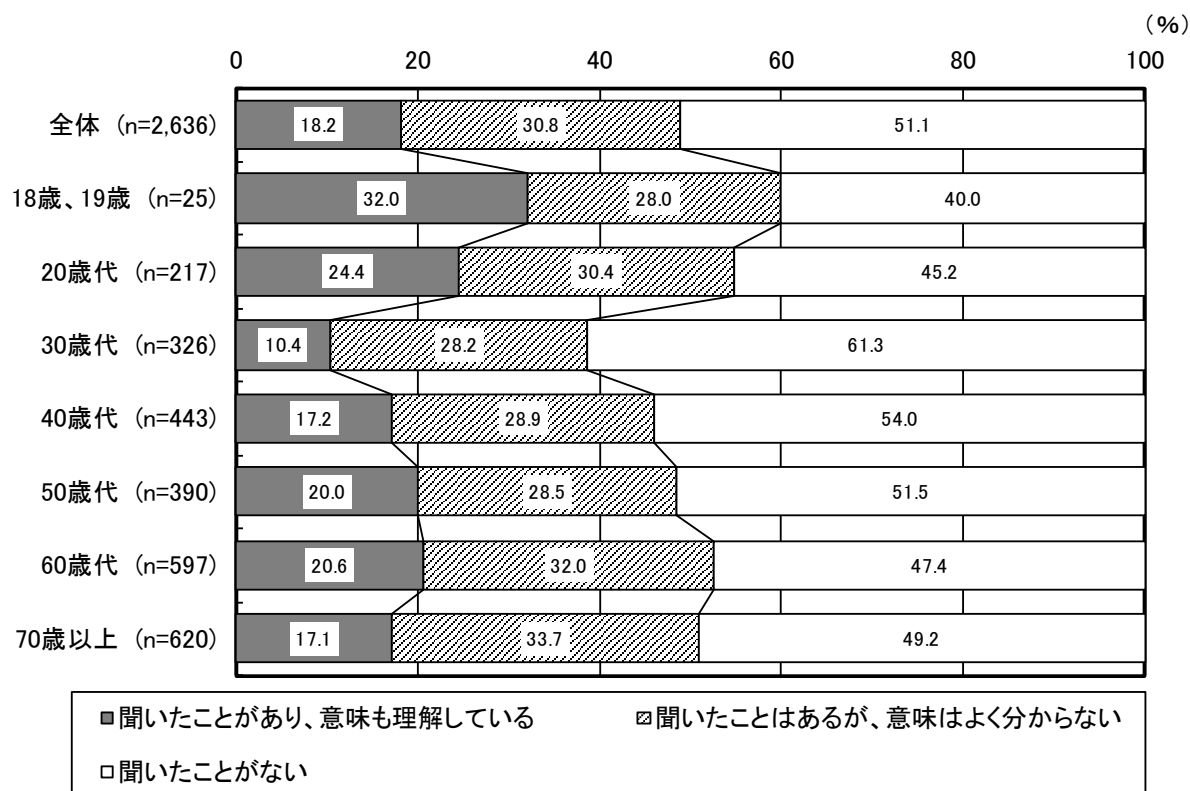
【問 5】あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。（n=2,636）

（1）全体的傾向

「聞いたことがない」と回答した人の割合が約 51%で、「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」を合わせた「聞いたことがある」人の割合が約 49%となっている。

（2）年代別にみた特性

18 歳、19 歳、20 歳代で、「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」を合わせた「聞いたことがある」と回答した人の割合が約 55%～60%となっており、他の年代と比べ高くなっている。



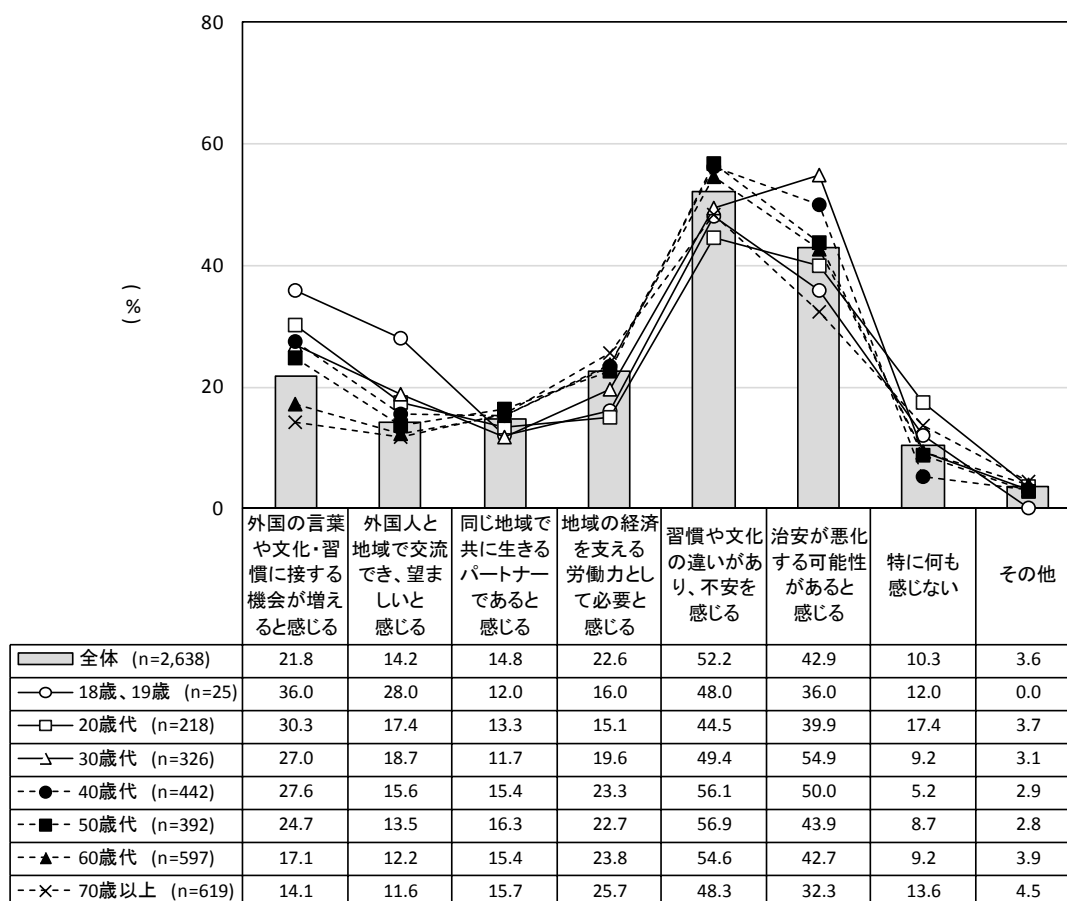
【問 6】豊橋市には約 1 万 4 千人の外国人市民が共に暮らしています。あなたは地域に外国人市民が増加することをどう感じますか。(複数回答：n=2,638)

(1) 全体的傾向

「習慣や文化の違いがあり、不安を感じる」と回答した人の割合が約 52%と最も高く、次いで「治安が悪化する可能性があると感じる」(約 43%)、「地域の経済を支える労働力として必要と感じる」(約 23%)と続いている。

(2) 年代別にみた特性

各年代とも、「習慣や文化の違いがあり、不安を感じる」と回答した人の割合が約 45%～57%、「治安が悪化する可能性があると感じる」と回答した人の割合が約 32%～55%と高くなっている。また、18 歳、19 歳～50 歳代では、「外国の言葉や文化・習慣に接する機会が増えると感じる」と回答した人の割合が約 25%～36%と高くなっている。



【問7】あなたは外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どんな取り組みが必要だと思いますか。(複数回答：n=2,540)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が約77%と最も高く、次いで「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」(約45%)、「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」(約44%)と続いている。

(2) 年代別にみた特性

各年代とも、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が約71%~80%と最も高くなっている。

